

令和3年度 水循環アドバイザーリスト(有識者)

(別紙2)

氏名(敬称略)	所属 役職	支援分野																				専門分野	備考 (主な経歴)			
		水循環全般	計流域水循環	水質改善	水利用	湧水保全	地下水	水インフラ	地域振興	貯留・涵養	水環境	防災・減災	農地・農業	生態系	水辺空間	水文化	地球温暖化	普及啓発・広報	国際連携	教育・人材育成	民間の取組			地域行政	広域連携	住民参加
風間 聡	東北大学大学院 工学研究科 教授	○	○					○		○	○	○					○		○						水文学、水工学、水資源工学	1995年東北大学大学院工学研究科博士課程修了、博士(工学)。筑波大学講師、タイ国アジア工科大学院助教授、京都大学防災研究所水資源環境研究センター客員教授等を経て、2010年より現職。専門は水文学、水工学、水資源工学。国土交通省最上川水系流域委員会委員長や文部科学省ユネスコ国内委員会委員などを歴任。著書に水文学(コロナ社)。
笹川 みちる	特定非営利活動法人 雨水市民の会 理事																		○	○	○	○	○	○	雨水活用、環境教育、普及啓発、住民参加型活動コーディネート	特定非営利活動法人雨水市民の会、雨水まちづくりサポート理事。東京大学教養学部文化人類学卒業、英国イーストアングリア大学開発学修士課程修了。NPOでの活動のほか、日本建築学会あまみず普及小委員会委員として雨水活用・水循環をテーマとした普及啓発活動に従事。市民向けのツール開発、水環境に関する啓発講座企画等に携わり、生活、アート、まちあるきといった多様な切り口で水循環の普及に取り組んでいる。
指出 一正	株式会社sotokotoonline ソトコト編集長												○												メディア、SDGs、関係人口、移住・定住、地域づくり、まちづくり、情報発信、コミュニティデザイン、エリアリノベーション、環境教育、教育、福祉	『ソトコト』編集長。1969年群馬県生まれ。上智大学法学部国際関係法学卒業。雑誌『Outdoor』編集部、『Rod and Reel』編集長を経て、現職。島根県「しまことアカデミー」メイン講師、静岡県「『地域のお店』デザイン表彰」審査委員長、和歌山県田辺市「たなことアカデミー」メイン講師、秋田県湯沢市「ゆざわローカルアカデミー」メイン講師、岡山県真庭市政策アドバイザー、富山県「くらしたい国、富山」推進本部本部員、群馬県「群馬県過疎有識者会議」委員、上毛新聞「オビニオン21」委員をはじめ、地域のプロジェクトに多く携わる。内閣官房まち・ひと・しごと創生本部「わくわく地方生活実現会議」委員。内閣官房「水循環の推進に関する有識者会議」委員。環境省「SDGs人材育成研修事業検討委員会」委員。内閣官房まち・ひと・しごと創生本部「人材組織の育成・関係人口に関する検討会」委員。国土交通省「ライフスタイルの多様化と関係人口に関する懇談会」委員。総務省「過疎地域自立活性化優良事例表彰委員会」委員。農林水産省「新しい農村政策の在り方検討会」委員。UR都市機構URまちづくり支援専門家。内閣官房「ふるさと活性化支援チーム」委員。BS朝日「バトンタッチ SDGsはじめてます」監修。「大阪・関西万博 日本館」クリエイター。著書に『ほくらは地方で幸せを見つける』(ポプラ新書)。趣味はフライフィッシング。
滝沢 智	東京大学大学院 工学系研究科 教授	○		○	○		○																		環境工学	1988年東京大学大学院博士課程修了、博士(工学)。長岡技術科学大学、建設省土木研究所を経て、1992年東京大学工学部助教授、1997-1999年アジア工科大学環境工学科准教授(派遣)を経て、2006年7月より現職。専門は都市水システム、水処理技術、地下水水質管理、開発途上国における水と衛生問題。新水道ビジョン策定検討会座長、水循環施策の推進に関する有識者会議構成員などを務める。
武山 絵美	愛媛大学大学院 農学研究科 教授	○	○									○													農業土木学、農村計画学	1988年京都大学大学院農学研究科修了、博士(農学)。ミュンヘン工科大学農学研究科を経て、2003年愛媛大学工学部助手、08年同学准教授。17年7月より現職。専門は農業土木学・農村計画学。食料・農業・農村政策審議会農業農村振興整備部会臨時委員、国土審議会水資源開発分科会吉野川部会専門委員、水循環施策の推進に関する有識者会議構成員などを務める。著書に「『獣害対策の設計・計画手法』人と野生動物の共生を目指して(農村計画学のフロンティア)」(共著、農林統計出版)。

令和3年度 水循環アドバイザーリスト(有識者)

(別紙2)

氏名(敬称略)	所属 役職	支援分野																				専門分野	備考 (主な経歴)			
		水循環全般	計流域の水循環	水質改善	水利用	湧水保全	地下水	水インフラ	地域振興	貯留・涵養	水環境	防災・減災	農地・農業	生態系	水辺空間	水文化	地球温暖化	普及啓発・広報	国際連携	教育・人材育成	民間の取組			地域行政	広域連携	住民参加
立川 康人	京都大学大学院 工学研究科 教授		○								○									○					水文学、特に洪水流出のモデル化と予測	1988年京都大学大学院工学研究科修了、博士(工学)。1990年京都大学工学部助手、1996年京都大学防災研究所助教授、2007年京都大学大学院工学研究科准教授を経て2013年より現職。専門は水文学、特に洪水流出のモデル化と予測。国土交通省近畿地方整備局淀川水系流域委員会委員、日本ユネスコ国内委員会委員などを歴任し、水循環施策に関する有識者会議構成員などを務める。著書に「水文学・水工計画学」(共著・京都大学学術出版会)、「CommonMP入門」(共著・技報堂出版)、「例題で学ぶ水文学」(共著・森北出版)、「エース水文学」(共著・朝倉書店)など。
辻村 真貴	筑波大学 生命環境系 教授	○	○			○	○				○								○	○					水文学、地下水水文学、トレーサー水文学、環境動態解析、地下水ガバナンス、流域水循環	1993年筑波大学大学院博士課程地球科学研究科単位取得退学。博士(理学)。1995年愛知教育大学助手、2007年筑波大学准教授、2008年内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)付調査員(併任)、2012年4月より現職。専門は水文学、地下水水文学。日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会調査委員、内閣官房水循環政策本部事務局流域水循環アドバイザー、水循環施策の推進に関する有識者会議構成員などを務める。著書(分担執筆)に「自然地理学」(ミネルヴァ書房)など。
中村 晋一郎	名古屋大学 工学研究科 准教授	○	○		○					○	○	○				○	○							○	水文学・水資源学	2008年東京大学大学院 工学系研究科 修士課程修了、博士(工学)。民間建設コンサルタントでの実務を経て、2010年東京大学 総括プロジェクト機構「水の知」(サントリー) 総括寄付講座 特任助教、13年同学生産技術研究所 特任助教、14年名古屋大学大学院 工学研究科 専任講師。2018年11月より現職。専門は国土デザイン学、水文学、水資源学。 水と流域の視点から国内外の都市や地域をフィールドに持続可能な国土形成に関する教育・研究を行っている。そのほか市民団体「善福寺川を里川」にカエル会(通称:善福蛙)共同代表等を務め、水辺や健全な水循環の再生に向けた実践を行っている。
古米 弘明	東京大学大学院 工学系研究科 教授	○		○	○					○	○														都市環境工学(下水道、都市雨水管理、水環境保全)	1984年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、博士(工学)。茨城大学工学部助教授、東京大学大学院工学系研究科助教授等を経て、1998年より現職。専門は水環境保全・制御、都市雨水管理、水質評価、厚生科学審議会委員、中央環境審議会委員、国土審議会専門委員、水循環施策の推進に関する有識者会議構成員などを務める。主な著書に「水システム講義：持続可能な水利用に向けて」(共著、東京大学出版会)、「水辺のすこやかさ指標“みずしるべ”：身近な水環境を育むために」(編著、技報堂出版)、「森林の窒素飽和と流域管理」(編著、技報堂出版)など。日本水環境学会学術賞、日本水環境学会学会賞、環境保全功労者表彰を受賞。
吉富 友恭	東京学芸大学 環境教育研究センター 教授													○	○										河川生物学、環境展示論	1988年東京水産大学大学院水産学研究科修了、博士(水産学)。科学技術振興事業団科学技術特別研究員、土木研究所水循環研究グループ(自然共生研究センター)研究員を経て、2004年東京学芸大学環境教育実践施設助教授、2007年准教授。2018年環境教育研究センター教授。専門は河川生物学、環境展示論。水循環施策の推進に関する有識者会議構成員を務める。著書に「魚のウロコのはなし」(成山堂)、「展示論」(共編著、雄山閣)、「環境の学習と観測にもとづいたグローブプログラムの理論と実践」(共編著、古今書院)など。

令和3年度 水循環アドバイザーリスト(有識者)

(別紙2)

氏名(敬称略)	所属 役職	支援分野																				専門分野	備考 (主な経歴)				
		水循環全般	流域の水循環計画	水質改善	水利用	湧水保全	地下水	水インフラ	地域振興	貯留・涵養	水環境	防災・減災	農地・農業	生態系	水辺空間	水文化	地球温暖化	普及啓発・広報	国際連携	教育・人材育成	民間の取組			地域行政	広域連携	住民参加	
渡辺 亮一	福岡大学工学部 社会デザイン工学科 教授	○	○	○	○					○	○	○													○	応用生態工学 水工学 河川工学 水環境工学	1997年九州大学大学院博士課程修了、博士(工学)。福岡大学工学部准教授等を経て2015年より現職。専門は応用生態工学、水工学、河川工学、水環境工学。国土交通省九州地方整備局九州河川技術懇談会委員、国土交通省うらおいのある川づくり技術向上検討会委員などを歴任。最近では、有明海におけるフルボ酸鉄シリカ資材を用いた干潟再生に関する研究を行うとともに、都市域での水循環を再生する目的で、福岡大学に建設された仮設人工芝サッカー場および自宅における雨水貯留・浸透に関する研究などを行っている。また、地域住民と協働で樋井川における定期清掃活動なども行っている。

# 令和3年度 水循環アドバイザーリスト(先進的に取り組む地方公共団体)

地方公共団体及び部署名 (担当者氏名(敬称略))	支援分野																				備考 (流域水循環計画の概要)				
	水循環全般	流域の水循環	水質改善	水利用	湧水保全	地下水	水インフラ	地域振興	貯留・涵養	水環境	防災・減災	農地・農業	生態系	水辺空間	水文化	地球温暖化	普及啓発・広報	国際連携	教育・人材育成	民間の取組		地域行政	広域連携	住民参加	その他
さいたま市 環境局 環境共生部 環境対策課 (田中 孝幸)																									さいたま市水環境プラン(第2次改訂版)(平成29年1月公表) (1)計画の概要 一層の都市機能の集約が見込まれる一方で、見沼田圃などの貴重な自然資源を有するさいたま市の水環境をメイン課題とした総合的な計画。 (2)計画の特徴 さいたま市水環境ネットワーク、水辺のサポーター等の市民団体や事業者との協働により水循環に関する取組を推進。
千葉県 県土整備部 河川環境課 (角田 秀樹、椿原 保彦) 千葉県 県土整備部 香取土木事務所 (山口 浩)																									印旛沼流域水循環健全化計画・第2期行動計画(平成29年1月公表) (1)計画の概要 急激な都市化により水質が悪化し、全国湖沼水質のワースト1となった印旛沼において水環境をメイン課題とした総合的な計画。 (2)計画の特徴 2030年度の印旛沼の姿を、地域住民、企業、水利用者、行政等をはじめ、全ての関係者が共有し取組を推進。
八王子市 水循環部 水環境整備課 (赤尾 隆範、清水 亨)																									八王子市水循環計画(平成29年1月公表) (1)計画の概要 急激な人口増加と都市化による水循環に関する課題解決を目指す八王子市における、地下水・湧水をメイン課題とした総合的な計画。 (2)計画の特徴 これまでの水に関する施策を水循環の視点からとらえなおし、「八王子・水のまちづくり」を基本方針とし健全な水循環の維持又は回復を推進。
秦野市 環境産業部 環境共生課 (谷 芳生)																									環境影響評価、自然公園、緑地保全、野生鳥獣等、生物多様性、森林保護、林業振興、里地里山里川、再生可能エネルギー 秦野市地下水総合保全管理計画(令和3年3月公表) (1)計画の概要 水道水源の約70%を地下水に依存する秦野市において地下水・湧水をメイン課題とした総合的な計画。 (2)計画の特徴 環境省による名水百選選抜総選挙において「おいしさが素晴らしい名水部門」で第1位となった地下水の質と量の保全に関する取組。 (3)改定のポイント 令和3年に「行政主導の施策から市民力を生かした施策へ」という視点から、地域で活躍する秦野名水の名人にスポットを当て改定。
大野市 くらし環境部 環境・水循環課 (松本 高志)																									越前おおの湧水文化再生計画(平成29年1月公表) (1)計画の概要 水道普及率(簡易水道含め)が約4割で、他の家や事業所では地下水を利用する大野盆地における地下水・湧水をメイン課題とした総合的な計画。 (2)計画の特徴 古くから湧水が豊富で、市民と水の関わりには特に深いものがあり、水と共生する生活様式やまちづくりなど、越前おおの特有の湧水文化を多様な主体が連携して保全する取組を推進。
安曇野市 市民生活部 環境課 (藤原 慎悟)																									安曇野市水環境基本計画および安曇野市水環境行動計画(平成30年1月公表) (1)計画の概要 松本盆地の最下流に位置し、豊富な湧水の恩恵を受けている安曇野市における地下水資源の保全に関する計画。 (2)計画の特徴 地下水保全の取組を進めるため、信州大学と連携し、地下水の見える化や将来像の予測について科学的裏付けを整理し、費用負担ルールなどの合意形成等を推進。
岡崎市 廃棄物対策課 (蜂須賀 功)																									岡崎市水循環総合計画(令和3年3月公表) (1)下流の旧岡崎市と上流の旧額田町が合併し、乙川流域が全て岡崎市に含まれたことを機に策定された水環境をメイン課題とした総合的な計画。 (2)環境省の名水百選選抜総選挙における「秘境地として素晴らしい名水部門」第1位の「鳥川ホテルの里湧水群」を源流とする乙川に関する取組。 (3)水循環基本法が公布され、全国各地で健全な水循環を守る活動が本格化してきていることを受け、これまでの取組の成果と課題を踏まえ、計画で定めた目標を見据えた取組を着実に推進するため、令和3年度以降の方向性を定めた改定を実施し「水循環総合計画」に改称しました。

# 令和3年度 水循環アドバイザーリスト(先進的に取り組む地方公共団体)

地方公共団体及び部署名 (担当者氏名(敬称略))	支援分野																				備考 (流域水循環計画の概要)						
	水循環全般	流域の水循環計画の策定	水質改善	水利用	湧水保全	地下水	水インフラ	地域振興	貯留・涵養	水環境	防災・減災	農地・農業	生態系	水辺空間	水文化	地球温暖化	普及啓発・広報	国際連携	教育・人材育成	民間の取組		地域行政	広域連携	住民参加	その他		
滋賀県 琵琶湖環境部	○		○	○					○	○			○	○	○				○					○		琵琶湖総合保全整備計画(マザーレイク21計画<第2期改訂版>)(平成30年12月公表) (1)計画の概要 日本最大の湖であり近畿圏の貴重な水資源である琵琶湖を健全な姿で次世代に継承していくため、「琵琶湖と人との共生」を基本理念として、琵琶湖の総合的な保全に取り組む計画。 (2)計画の特徴 計画目標として「琵琶湖流域生態系の保全・再生」と「暮らしと湖の関わり再生」の2つを柱に位置付け、各施策に取組むとともに、多様な主体が参画するマザーレイクフォーラムにおいて計画の進行管理を行うこととしている。	
高知県 林業振興・環境部 自然共生課 (松尾 文昭)																								○		第2次仁淀川清流保全計画(平成29年4月公表) (1)計画の概要 高知県が中心となり、仁淀川流域における、水量・水質・生態系、人との関わり、文化等に関する総合的な計画。 (2)計画の特徴 第1次計画(H11.3 策定)は水質保全を中心とした計画であったが、施策実施には住民との協働が不可欠とし、第2次計画は住民参加の視点を入れて策定。	
熊本県 環境生活部 環境局 環境立県推進課 (吉田 徹也、元田美智子、林 英明、水口 翔太郎)		○		○		○			○										○	○	○		○	○		熊本地域地下水総合安全管理計画、第3期行動計画(令和2年1月公表) (1)計画の概要 水道水源のほぼ100%を地下水に依存する熊本地域(熊本市を含む周辺11市町村)において地下水をメイン課題とした総合的な計画。 (2)計画の特徴 特殊な地質構造により、一般的な水田の約5倍の浸透力を持つ白川中流域における湛水事業などの地域の実情に沿った取組を推進。 (3)更新の趣旨等 管理計画策定時と比較して地下水位や湧水量が改善傾向にあることから、第2期行動計画の考え方を継承し、効果の高い施策・事業の着実な推進と更なる施策展開の検討等を実施。	
熊本市 環境局 環境推進部 水保全課 (永田 努)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	第2次熊本市地下水保全プラン(平成29年1月公表) (1)計画の概要 水道水源のほぼ100%を地下水に依存する熊本市において地下水をメイン課題とした具体的な行動計画。 (2)計画の特徴 熊本市の地下水保全活動は「平成20年日本水大賞グランプリ」、「国連“生命の水”最優秀賞(2013年)」を受賞した国際的にも評価された取組。
都城市 上下水道局 総務課 (輪園 裕介)	○					○			○																	都城盆地硝酸性窒素削減対策基本計画・都城盆地硝酸性窒素削減対策実施計画(最終ステップ)(平成29年1月公表) (1)計画の概要 浅井戸の硝酸性窒素濃度が全井戸の13%において「環境基準」を超えた都城盆地において地下水の水質対策をメイン課題とした総合的な計画。 (2)計画の特徴 宮崎県の1市2町、鹿児島県の1市などの区域で、行政、JA等の関係団体、畜産・農業事業者等の事業者の役割を明確にして取組を推進。	
豊田市 上下水道局 企画課 (久保)																										水環境共働ビジョン～地域が支える流域の水循環～(平成29年4月公表) (1)計画の概要 平成17年における市町村合併により、矢作川の上流域の大部分を占める豊田市における水環境をメインとした総合的な計画 (2)計画の特徴 市内を「水源・涵養域」、「湧出・水利用域」、「流出域」の3つに分割し、地域ごとに現状と課題を整理し取組を推進。	

# 令和3年度 水循環アドバイザーリスト(先進的に取り組む地方公共団体)

地方公共団体及び部署名 (担当者氏名(敬称略))	支援分野																			備考 (流域水循環計画の概要)					
	水循環全般	流域の水循環計画の策定	水質改善	水利用	湧水保全	地下水	水インフラ	地域振興	貯留・涵養	水環境	防災・減災	農地・農業	生態系	水辺空間	水文化	地球温暖化	普及啓発・広報	国際連携	教育・人材育成		民間の取組	地域行政	広域連携	住民参加	その他
西条市 環境部環境政策課 (東元 道明)		○				○											○						○		西条市地下水保全管理計画(令和2年12月公表) (1)計画の概要 西条市にとって不可欠な水資源であり、「うちぬき」や湧水を活用した水環境とそれを織りなす文化を形成する「地域の宝物」でもある地下水の水量・水質を保全するための施策を推進する計画。 (2)計画の特徴 先進的・継続的に行われてきた地下水調査を踏まえ、健全な水循環を実現するため、市民の共有財産としての性質を持つ地下水を「地域公水」と位置付け、市民・事業者と行政が一体となって「うちぬき文化」の継承と発展に資する管理のあり方を提案。
仙台市 建設局百年の杜推進部河川課 (稲垣 憲明)																					○				広瀬川創生プラン(令和2年12月公表) (1)計画の概要 本計画は、市の都・仙台のシンボルであり、市民の誇りである広瀬川を後世に引き継いで行くべき市民共有の財産として再認識し、将来にわたって保全していくとともに、新たな魅力の創出を図るためのアクションプランとして策定。 (2)計画の特徴 市民・NPO・行政が実施する事業を集約・体系化し、各主体の自発的な取組の推進を図るため、協働手法や各主体に期待される役割分担を個別具体的に明示。
辰野町 住民事務課 (宮原 隆史)		○																							辰野町環境基本計画(令和2年12月公表) (1)計画の概要 広範・多岐にわたる環境問題に的確に対応するにあたって、「辰野町にかかわるすべてのものが参加連携して、町の豊かな自然を生かし、健康で安全かつ快適な生活の営みができる郷土」の実現に向けて、包括的な環境の保全及び創造に関する各種施策を総合的かつ計画的に推進するために策定された計画。 (2)計画の特徴 水辺の健全な生態系機能の維持や文化機能の確保や水源かん養機能の確保、地下水の水質保全対策などを推進。
鹿児島県 環境林務部 (大庭 大輔)									○														○		鹿児島湾ブルー計画(平成30年12月公表) (1)計画の概要 「美しい錦江湾を明日の世代へ」を基本理念に、将来にわたって確保されるべき鹿児島湾の環境保全目標を定め、それを維持達成するための総合的な方策を示した計画。 (2)計画の特徴 鹿児島湾の水環境を将来にわたって良好に保全するため、昭和54年以降、長期にわたって講じてきた各種の環境保全対策を発展的に継承し、湾域の水環境管理を更に推進するもの。 第4期池田湖水質環境管理計画(平成30年12月公表) (1)計画の概要 県内有数の景勝地であり、周辺地域の重要な水資源である池田湖の水質環境の保全を目的に、水質環境保全目標等を定め、それを維持・達成するための総合的な施策を示した計画。 (2)計画の特徴 池田湖の水質環境を将来にわたって良好に保全するため、昭和58年以降、長期にわたって講じてきた水質環境保全対策を発展的に継承し、池田湖の水質環境管理を更に推進するもの。